

第5節 新治村出土の槍先形尖頭器について

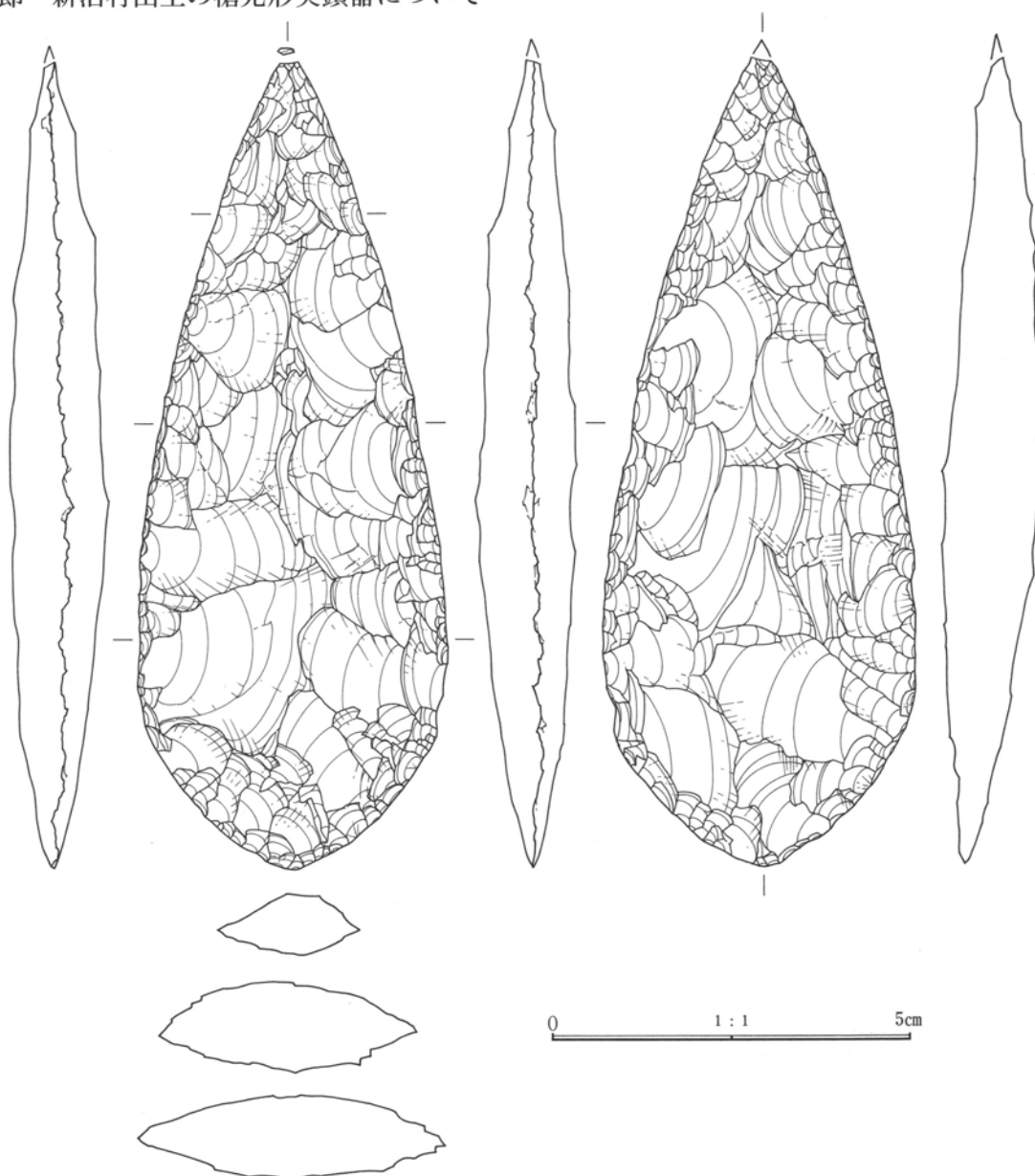


図48 新治村内出土槍先形尖頭器図

本資料は今回の発掘調査により出土したものでないが、新治村教育委員会のご理解により、掲載の運びとなったものである。新治村内というだけで、詳しい出土地点も不明であるが、旧石器時代終末から縄文時代草創期の槍先形尖頭器の可能性が高いということで、その重要性も鑑みて載せることとしたものである。

現存長は11.15cm、最大幅4.30cm、重さ57.0g、石材は硬質頁岩である。先端部が一部欠損しているものの、ほぼ完形であり、遺存状態は良好である。

平面形態は木葉形を呈するもので、断面はほぼ凸レンズ状を呈する。基部に近い部分に最大幅が位置する。表裏両面の稜部を主体に柄に装着して使用した際に、弛みがあつて擦れ合つてできたと考えられる、やや鈍い光沢痕が認められる。石材の硬質頁岩は県内産でない可能性もある。おそらく東北または新潟方面からの搬入品ではないかと考えられる。類似の木葉形尖頭器は、藤岡市田島遺跡にもあるが、本品は加工も非常に丁寧で細かく、県内の神子柴型尖頭器の中では秀逸の一本と呼んで良いものと言えよう。